

## 設置百年

八日市場を歩く

昭和100年の今年、市立八日市場図書館は1925（大正14）年の設置から「100年目」を迎えました。

筆者が最初に知る市立図書館は中央中学校（現在の八日市場二中）敷地内に1958（昭和33）年に建てられたものです。1970

（昭和45）年、現在の場所に公民館が建設され、その一室に図書館が設置されました。その後、公民館の全面改修時に増築される形として現在の図書館は開館しました。

「千葉県図書館史」（1968年刊



天神山に建てられた頌徳碑

行）に載る「八日市場図書館史」には、大正14年設置の八日市場町立図書館の前期（大正14年から昭和21年）と後期（昭和22年から同29年）、八日市場市誕生後の昭和33年ごろまでの図書館や地域の文化活動が紹介されています。

図書館の前身とされるのが、1901（明治34）年に八日市場小学校内に設置された匠瑳郡教育会付属図書館で、その後さまざまな変遷をたどりました。「八日市場図書館史」からは100年余りの歩みの中で、図書館の開設、運営にあたった人たちの名前や読書活動など、地域を挙げての足跡が知られます。筆者が直接お目にかかった人や間接的に図書館に貢献された内容をお聞きしたことなど懐かしく思い出されます。

そうした歩みの中で戦後、旧八日市場市役所庁舎（田町区）前にあった鐮木政治氏の開設した私立鐮木図書館を借り上げ、町立図書館としていました。同氏は私財を投じて「よい子の会」の育成にも尽力しており、天神山に上る石段の途中には、1964（昭和39）年8月「八日市場よいこの会」が建てた鐮木氏の「頌徳碑しょうとくひ」があります。碑面には同氏をたたえる詩が刻まれ「鐮木先生ありがとう」と結ばれています。

この碑は100年余りにおよび地域の小さな図書館の歩みを支えた人たちの足跡を伝える唯一のものといえるでしょう。

（市文化財審議会委員・依知川雅一）

☎ 図書館課 広報広聴班 ☎ 73・0080